

2016年度

春号



特集

立命館での学び

小集団教育と学外へも広がる活動的な学び

総合心理学部が開設

新掲載

知への扉 vol.1 スポーツ健康科学部 海老 久美子教授

食への理解は体だけでなく心を育みます

立命館大学
父母教育後援会だより

父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumeai-fubo.com>

立命館大学のホームページからは…
「保護者の方へ」をクリック

■会員の住所変更について

本誌は、学生が学部へ届け出ている保証人住所宛に送付しています。保証人住所を変更される場合は学生本人による手続きが必要です。学びステーション(衣笠所属の方は、所属学部事務室)まで学生証を持参の上、手続きするようお子さまにお伝えください。

※最近、立命館や関係団等の名刺を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会を学生には一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。



立命館大学父母教育後援会だより 2016年度 春号

2016年4月発行 立命館大学父母教育後援会

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1 Tel.075-813-8261 Fax.075-813-8262

巻頭特集

P3 ……

立命館での学び
小集団教育と学外へも
広がる活動的な学び

P8 …… 総合心理学部が開設されました

P10 …… ゼミナール訪問

P14 …… 部活動&サークルウォッチング

P16 …… 知への扉 vol.1 スポーツ健康科学部 海老久美子教授
「食への理解は体だけでなく心を育みます」

P18 …… 父母教育後援会からのお知らせ

News 衣笠キャンパスに「平井嘉一郎記念図書館」を開設

半世紀近くにわたり衣笠キャンパスで学生の学びを支えてきた図書館が、この4月、新たなアカデミックシンボル「平井嘉一郎記念図書館」に生まれ変わりました。

立命館大学では「学びが見える、学びに触れる、学びあえる」図書館を目指し、これまでも学生同士がディスカッションやプレゼンテーションを通じて主体的に学び合い、成長できる空間を展開してきました。新しい「平井嘉一郎記念図書館」ではこのビジョンを継承しつつ、学びのコミュニティの中心拠点として学生の学びを一層深め、また学生から愛され続ける図書館として大きく発展していくことが期待されています。父母教育後援会会員の皆さまにも、ご利用いただけます。

*「平井嘉一郎記念図書館」は立命館名誉館賓である平井嘉一郎様のご遺志をくまれ、ご令室の名誉館賓・平井信子様からご寄贈いただいた図書館です。

立命館
での学び

大学生生活に早く馴染めるように工夫された1回生の小集団科目。
学生同士が学び合い、成長しあうピア・ラーニングなど
立命館大学には特徴的な教育システムがあります。さらに今春
開設された総合心理学部の最新情報をご紹介します。



小集団教育と 学外へも広がる 活動的な学び

高校生から一変し、大学では学生自らが能動的に学ぶことが求められます。そうした初めての体験にも戸惑うことなく、学ぶ楽しみを実感し、さらに発展させていけるように、立命館大学では特徴的な教育システムが導入されています。こうした学びを父母教育後援会もサポートしています。

学生主体の 学びを目指して

立命館大学では、一人ひとりの学生が自分の関心や将来の目標に応じて、自分の意思で主体的に学ぶことを大切にしています。

大学での授業は高校までとは違い、時間割や受講する科目が定められているものばかりではありません。自分の興味・関心や将来の進路に応じて科目を履修し、その上で課外活動などに参加するなど、数ある選択肢から学びの機会を自分から選んでいくことになります。本学ではそのためのサポートとなる小集団教育に力を入れています。

check

新入生の学びを支援

学生にとって、学内で授業を受けるだけが学習ではありません。小集団クラスで学外へフィールドワークに出たり、外部から講師を招くなどし、主体的に学ぶ機会が数多くあります。父母教育後援会も学生支援事業の一つとして、小集団クラスでの活動へ支援を行っています。

コミュニティの中でお互いに 学びあう「小集団科目」

立命館大学の在籍者は約32,000名。全国でも3番目に学生数の多い大学ですが、きめ細かな学びの場が用意されています。それが、入学して一番初めに所属するコミュニティである「基礎演習」(※1)です。これは各学部において約30名ずつにクラス分けされた小集団を指し、各クラスでは、一人の教員が担任となり、学生を見守っていきます。また、教員だけでなく、オリター(※2)と呼ばれる上回生も各クラスに配属され、1回生の学修や学生生活の手助けを行うのも本学ならではの取り組みです。

(※1) (※2) 学部により異なります。

クラスの仲間と 「大学での学び方」を身につける

大学での学びは、高校までと異なり正解を求めるだけではありません。最適な解答を導き出すために、データや事実をもとに根拠となる論理を組み立て、自らの考えを発展させていく過程が必要です。

そういった「大学での学び方」を1回生の小集団科目で修得することを目指しています。自分とは違う意見にも耳を傾け、様々な切り口からクラスの仲間とディスカッションし、一人では気づかなかった論点や探せなかった情報などを互いに得ることの大切さを学びます。

クラスに配属されるオリター(※)は、そのような学び方を模索する1回生に助言を行う役目を担っています。

(※) 学部により異なります。

考えることで生まれ広がるオリターの活動

オリター団の活動は、長年継続的に行われてきたプロジェクトだけでなく、彼ら自身が考え、学ぶことで、新たな企画も提案され、活動の幅は広がっています。こうした自発的に問題提起や解決を行う力を養える環境が、立命館大学には整っています。

頼れる先輩 「オリター団」

新入生は「友達ができるだろうか」「単位は取れるだろうか」…など、不安や心配で一杯です。そんな1回生のために、少しでも力になりたいと願う学生が自主的に集まった学生団体がオリターです。

1回生の小集団クラスには2名程度のオリターが配属され、受講する科目や教員のこと、クラブやサークルのこと、一人暮らしなど生活に関わるプライベートな話題まで、一番身近な先輩として親身に相談に乗ったり、アドバイスを行っています。多くの1回生にとって、オリターは入学後最初に出会う先輩です。新入生を温かく見守り、良き兄・姉として新入生の心強い味方となっています。

check

基礎演習やゼミでグループ別に発表する準備を行うため、コモンズなど様々な設備の整った環境が用意されています。

図書館で討論できる『びあら』

図書館の蔵書や資料を持ち寄り、グループでのディスカッションができる空間。レイアウトを変えながら最適なグループ学習が行えます。



OICはキャンパス全体が ラーニングプレイス

昨年4月に開設した大阪いばらきキャンパス内には、幅18m・長さ200mのコンコースがあり、椅子やテーブルのほかパソコンも配置するなど開放的な学びのコミュニティ空間として設計されています。そのほか、学部を超えて自由に交流し協同学習ができるスペースも数多く用意されています。



オリター団が クラスを盛りあげます

春は新入生がまずはクラスを基盤とした人間関係を作れるように、オリター達がクラス全員で交流できるように企画を提案しイベントなどを開催。4月下旬の新入生歓迎祭典では、各クラスで模擬店などの出店を行ったり、5月にはクラスの親睦を深めるため合宿を企画しています。



オリターも共に学び成長する 立命館のピア・ラーニング

小集団クラスにおいて、「大学での学び方」を修得する1回生へ助言を行うためには、オリターたちは自分の経験を振り返り、相手にわかりやすく的確に伝える必要があります。どうすれば上手く伝わるか、1回生が役に立つアドバイスは何かなど、オリターである上回生も試行錯誤の連続です。また、オリターの活動は一人ではできません。オリター団の仲間や先輩・後輩、そして時には先生とも協力しながら1回生のクラスを盛り上げるために活動をしていきます。

小集団クラスの中で、新入生だけでなく、先輩と一緒に学びあって成長していく、こうしたお互いに学びあうスタイルを立命館では、「ピア・ラーニング」と呼んでいます。



新入生と100円朝食で交流



オリター団が企画した合宿では、低回生から朝食の習慣を身につけてもらおうと、1回生を100円朝食に

招待。みんなで朝食を食べ、交流を深めるなどしています。父母教育後援会も、この企画を支援しています。

初めての一人暮らしを応援

「下宿先はどうして選べばいいか」「何が生活に必要なか」など、新入生の疑問に答え、助けになりたいと、オリターたちはWEBで情報を発信するなど様々な活動を実施。さらに、家電などのリサイクル活動も企画しています。「エコにつながる

オリター活動を通じて得たこと

オリターは様々な人達と知り合うことができるので、いろいろな価値観や考え方に触れられることも活動を通じて得たことの一つです。

団体活動なので、一人で抱え込まずに仲間と助け合っていくことが大切。振り返ってみると、自分自身も成長し、かけがえのない仲間など大切なものを与えてくれました。

一人で活動するのではなく、先輩・同回生、教職員、そして何よりも1回生など様々な人達に支えられていると感じました。



だけでなく、立命館大学の先輩として、上回生から新入生へ思いやりが伝わるリサイクル活動を行いたい」と、リサイクル業者を交えて打ち合わせを重ね、実現へ向けて取り組むなど、オリターたちの活動は多岐にわたっています。



新入生へのアドバイスはこちらからご覧になれます
→ <http://rits-fubo.jp/2016>

社会とつながる活動で 人として大きく成長

立命館大学では、様々な課外活動の場があります。クラブやサークルだけでなく、地域へ貢献したり、産学連携で企業と一緒に活動している団体など様々です。また、ボランティアやインターンシップ、留学など正課と密接に関わる活動に挑戦する学生も多く、正課を学びの軸として、異なる側面から学びを深めています。

地域 連携

京北プロジェクト

産業社会学部・景井教授のゼミでは、2008年に学部とNPO法人が包括協定を締結して以来、京北の地域振興や地域活性化に向けて様々な活動を展開。2011年には[りつまめ納豆]をプロデュース（京都市内デパート・スーパーを中心に販売中）。今や台湾でも販売されるなど、その活動は大学内外に影響を与えています。2013年5月から、新たなNPO法人と連携し、食と地産地消をテーマとして[食の里親プロジェクト]を開始。衣笠キャンパスで京北の農産物を販売する[京北マルシェ]、購買での物産フェア、学食で京北産食材を使ったフェアを開催するなど、意欲的な活動に取り組んでいます。



国際 交流

TISA

立命館大学の留学生が日本でより良い生活を送れることを目指して、日本人との交流や、日常生活における様々なサポートなどを行っている団体です。各キャンパスで活動が行われ、BBQや京都観光などのイベントを定期的に開催し、留学生との交流をはかっています。留学生はもちろん、日本人学生も参加可能で、約70名の学生がこの活動に参加しています。

企業 連携

ロフト部

2014年8月に、学校法人立命館と株式会社ロフトが人材育成、地域振興等を目的に連携・協力する包括協定を締結し、ロフト部が誕生。まだ新しいプロジェクトですが、現在部員総数は67名にものぼり、学生ならではの視点から、新しい売り場の提案やワークショップの展開などの立案を行っています。一人暮らしの新入生の新生活を応援する企画などが好評です。



大学の外でも活動

社会で、家庭で、企業で、人生で生きる

総合心理学部が開設されました

4月からOICに開設された総合心理学部。従来の心理学とは一線を画した新しい学びを展開し、人間を総合的に探求することを目指して、約280名の新入生を迎えました。全国有数の規模を持つ実験・実習施設とアクティブ・ラーニングを支える学習空間を整備し、多方面に渡る専門教授が学生たちの学びをサポートする全国でも最先端の心理系学部です。



学生数、教員数ともに日本最大級の心理系の学部が誕生しました。心理学のより広い範囲をカバーし、演習など少人数の緻密な教育も1年目から実施。教育・研究施設も充実しています。心理学は、「心とはなにか」を問う哲学的な学問であると同時に、実験・調査が必要なサイエンスでもあります。総合心理学部では、この両側面からの教育を推し進め、英語教育にも力を入れ、人間に対する深い理解を持ち、国際社会で活躍できる人材を育てます。新しい学部ですので、多少の混乱もあるでしょう。しかし、これも生みの苦しみ。学生、教職員一丸となって、楽しく学び、研究できる、そんな場を創っていききたい。それが、私の抱負です。

佐藤 隆夫 総合心理学部 学部長
1974年3月東京大学文学部心理学専攻を卒業。1983年5月同大学院人文科学研究科心理学専攻課程博士課程を単位取得退学後、米国ブラウン大学心理学部大学院を修了。その後、会社勤務を経て、1995年5月東京大学大学院人文社会系研究科助教授、翌12月同研究科教授となる。2016年度より立命館大学総合心理学部教授として着任。専門は知覚心理学。公益社団法人日本心理学会常務理事や、国際心理学会組織委員会副委員長も務める。



矢藤 優子
総合心理学部 副学部長
大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程修了（博士（人間科学）取得）。2016年度より立命館大学総合心理学部教授として着任。比較発達心理学、乳幼児心理学が専門。[困ったときの子育てQ & A 育児の疑問・質問に専門家が答えます]（楓工房）などの著者でもあります。

文理融合の新しい心理学

以前の心理学は、人が語る内観や行動がもとになっていましたが、現代では脳や生理学的なデータを合わせて総括的に心について調べる学問へと発展。総合心理学部はまさにそうした新しい心理学を学ぶ場といえます。「複雑化する社会や、急速に発達する情報通信など、私たちを取り巻く環境の変化によって、今や新たな心理学が必要とされています。ですから、学生たちは経済や司法に関する社会科学や、医学・脳科学といった自然科学の両方を学ぶ必要があり、理系の学生に道が開かれているのも特徴」と矢藤教授。共感とデータ分析の能力を持った、心理学のゼネラリストを育成するのが目的です。そうして総括的に得た知識とスキルは、社会や企業だけでなく、家庭や人生で役立ち、学生たちの財産となります。

check

学生の4年間を見守り続ける担当教員

学生一人ひとりが「自分は卒業する時にはどうなっていたいか」、「各回生で達成したいことは何か」といった目標を持ち、節目ごとに振り返ります。学生が所属するクラス（※1）には担当教員が配され、その過程において適切なアドバイスを行うなど、担当学生に4年間寄り添いながら成長を見守ります。

（※1）学生がクラスは基礎演習（1回生）や展開演習（2回生）専門演習（3・4回生）と卒業するまで所属します。

check

注目の「プロジェクト発信型英語プログラム」

興味を持ったテーマや心理学分野の先端的研究テーマについて世界中から情報を集め、リサーチやディスカッションを行い、その成果を英語で発信するというこれまではなかった新しい英語学習のスタイルです。心理の専門家として、また一般社会でも国際的に活躍できる英語運用能力を養成します。

check

心理専門職の資格取得にも対応予定

2015年、「公認心理師法」が成立し、「公認心理師（※2）」は心理職の国家資格として注目されています。総合心理学部においても、公認心理師に必要な科目や実習を組み込んだ総合心理学部に対応する大学院の整備を行っていく予定です。

（※2）心理系学部卒業に代えて大学院修士課程・博士課程前期課程を修了する必要があるものとして構想されています。

こんなことも「総合心理学」です

人のいるところに心理学あり。人の気持ちだけでなく、身体の働きやさまざまな行動の理由など、意外なことも心理学が取り扱う研究テーマであることが分かります。

なぜアクセルとブレーキを踏み間違えるのか？

原因不明の心身の不調をどう考える？

赤ちゃんはどうやって言葉を覚えるのか？

血液型で性格がわかるのか？

なぜコンピュータを人間らしく扱ってしまうのか？

3つの分野で学ぶ総合心理学部

心理学を軸に医学や経済学など多様な分野からアプローチする日本最大級の心理系学部

総合心理学部では、心理学を基礎としながら様々な視点を持ち、より総括的な学びを目指しています。さまざまな環境における複雑な人間の心理を、より深く理解する人材を育成するため、コースは大きく3つに分かれています。

認知・行動コース

人間の心のはたらきと行動の仕組みについて、実験的方法を用いて科学的に探求し、人間そのものの理解を深めます。人間がどのように環境などを認識するのか、動機の形成などを学び、心理的諸問題に対処する方法についても修得します。

発達・支援コース

乳児期から高齢期まで、人間の発達について生物学的次元から社会・文化的次元までさまざまな知識を獲得し、発達のメカニズムを学修します。各発達段階における人間の特徴について深く学び、学校や家庭、地域での臨床的発達支援についての知識や技術も修得します。

社会・共生コース

現代的な課題を、心理学の立場から解決する方法を修得。自己と他者の関係といった身近な対人関係から、地域やグローバル社会で発生する紛争問題まで、様々な人間関係における問題とその解決について、心のはたらきと行動の仕組みをひも解きながら学修します。

check

4月16日

（第3163回）生涯発達心理学からみるキャリアと分岐点
—生殖の困難にみまわれた女性の語りから—
総合心理学部 准教授 安田 裕子

4月23日

（第3164回）記憶は心のどこにあるのか
—心理学における事実と体験—
総合心理学部 教授 森岡 正芳

立命館土曜講座

日時：土曜日 午後2時～午後4時
場所：立命館大学（衣笠）末川記念会館講義室
主催：立命館大学衣笠総合研究機構
電話：075-465-8236

※聴講無料・事前申込不要
※当日の入場状況によって、立ち見のお願い又は入場制限をさせていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

木村 富紀ゼミ



遺伝子研究で感染とガンに立ち向かう

ゼミ生
voice

坂本 凌さん

臨床のみならず研究もできる薬剤師として、医療の発展に貢献し人々の“生活の質”の向上に貢献したいです。

北島 美有さん

薬物中の成分が、免疫に関わっているのかを確認する実験を行っています。実験は大変ですが、研究室のメンバーみんながお互いに励ましあって頑張っています。

森口 雅之さん

将来は国の行政に関わる仕事に就き、政策の面から日本の医療を支えていけたらと考えております。

山本 彩加さん

実験を通して、自分で考える姿勢を持つ大切さを教授から教えていただいています。薬剤師として働く時もこの考え方を大切にしたいです。

弓削 佳祐さん

僕はこの研究室でインターフェロンという免疫に関わる分子の安定性に寄与する分子について研究しています。

小川 美咲さん

忙しい時もありますが、研究室では新しいことを学べたり、先生や先輩方とディスカッションしたりなど、とても刺激的で楽しく過ごさせていただいています。

尾川原 彩さん

自分たちの身体のなかで、遺伝子レベルでどんなことが起こっているのかということに興味をもったので志望しました。

近藤 芽衣さん

研究内容は難しく理解するのに精一杯の毎日ですが、新しいことを学ぶのはとても楽しいです。

道瀬 真史さん

先輩も後輩も関係なく仲良しメンバーです。研究室での活動を通して多くのことを学んでいきたいです。

木村 優さん

この研究室を選んだ理由は、RNAの制御による核酸医薬の創製とそのメカニズムに興味を持ったからです。

西川 恵理さん

私がこの研究室を志望した理由は、病原微生物に興味があり、先生の研究内容に関心を持ったからです。

西久保 有里さん

木村先生の質実なお人柄と、研究室見学の際に感じた先輩方の雰囲気惹かれました。

福田 奈央さん

元々、病原微生物、微生物の授業に大変興味があったため、それらの科目を担当されている木村先生の研究室に興味をもちました。

森重 春加さん

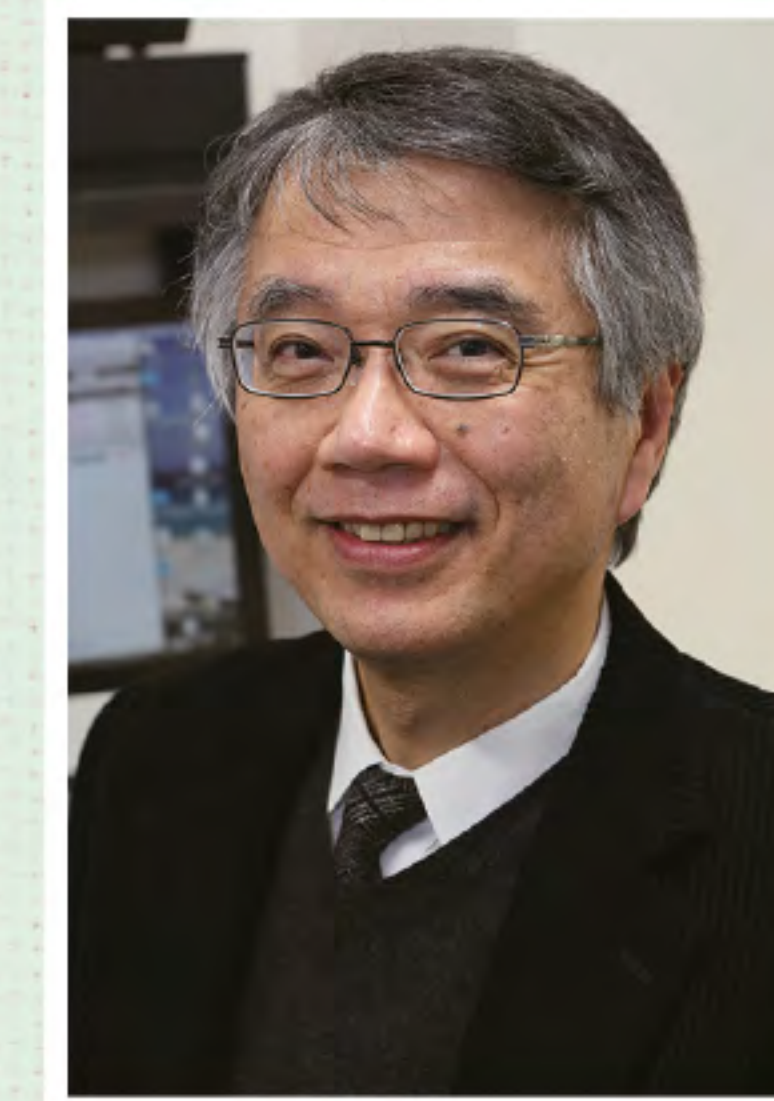
私が目指す薬剤師像に近づくために木村先生のご指導のもと、ゼミの同期、先輩方とともに研究に励みたいのです。

遺伝子と密接に関わる新薬の研究

医師でありウィルス学の専門家でもある木村教授は、現在遺伝子の発現制御の研究に取り組み、感染やガンと戦う研究を進めています。「簡単に言えば、私たち人間の体の中の現象はタンパク質が調節していて、タンパク質はDNAの情報から作られます。そのタンパク質を作るのに関与しているのがRNA。さらにRNAの中にはタンパク質の変換に使われない、制御性RNAというものが存在し、体内の免疫システムにも関与しています。いわばこの働きにより私たちは生命と健康を維持しているのです」。

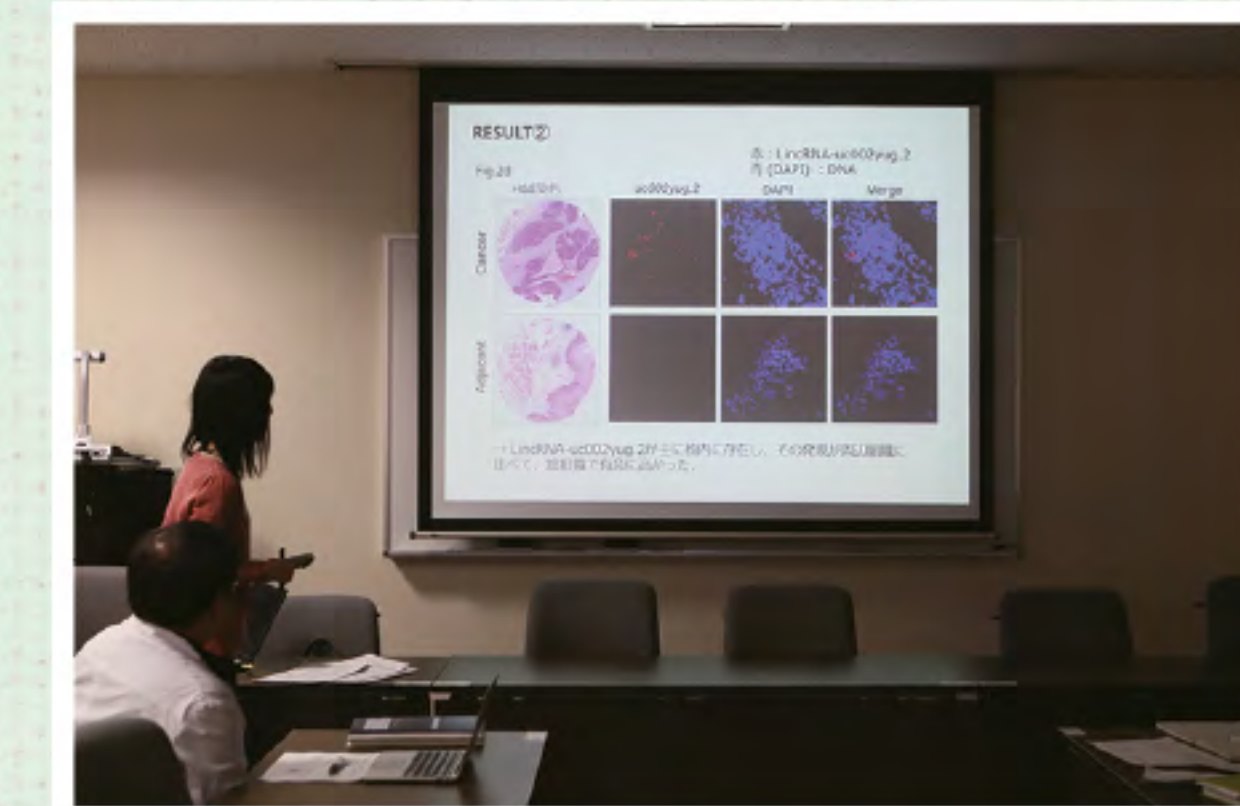
こうした研究にいち早く着目した木村教授は、感染予防に効力を発揮するインターフェロン-αを発見されました。体内でより早く、多く作らせるRNAを発見し、モルモットによる動物実験でその証明にも成功。これが薬へと応用できれば、インフルエンザなどのウィルス対策や、ガン治療に役立つ新薬が完成する可能性があります。木村ゼミでの研究と学びにより、私たちの健康を左右する画期的な新薬が誕生するかもしれません。

1. RNA実験が行われている部屋では清潔第一。土足厳禁はもちろん、白衣、手袋、マスク着用が基本です。実験用のチップを準備するため、手際良く流れ作業で行う学生たち。ここには危険な薬剤もあるため、全てが厳重に管理されています。 2. 上回生からもアドバイスを受けながら、実験中の培養した細胞を顕微鏡でチェック。 3. 実験には細かな作業が多く、扱いを間違えればデーターを失うため、細心の注意を払って行われます。

ある日の
木村 富紀
ゼミ

木村 富紀 きむら とみのり
薬学部 薬学科 教授

1980年3月関西医科大学医学部医学科卒業、同大学にて医学博士取得。2007年4月より立命館大学理工学部応用化学科、翌年に薬学部薬学科の教授へ。専門は病原微生物学、感染症学、分子細胞生物学（ヒトのウィルス感染応答性自然免疫遺伝子の発現制御機構の研究）。



実験データを示しながら、思考の過程や手法をレポート。教授からの細かなアドバイスなどがあり、この日の発表だけでも約2時間が費やされていました。

全国の薬学部の最先端を目指して

薬学部には2015年に新設された4年制の創薬科学科と、6年制の薬学科があり、木村ゼミは後者。研究や臨床も行え、医療に貢献する人材育成を理念としており、これは現在厚生労働省が提唱する[ファーマシスト・サイエンティストの育成]と通じます。この日のゼミで学生数が少なく思えたのも、この理念に基づき、6回生は薬剤師国家試験受験に向けての準備、5回生の多くは実習で欠席していたためです。5回生は病院薬剤部、調剤薬局へ各11週間の実務実習へ出て、研究や臨床の現場に触れ、学びを深めるのです。

ゼミでは近着論文の紹介や卒業研究結果のレポートなどが行われており、食道ガンの悪性化に関わる制御性RNAを扱った最新の研究の紹介や、インフルエンザに有効な甘草の成分についての実験結果などが発表されました。学生たちは発表のために数多くの実験を行う必要があり、発表ではその手法やデータの取り方に至るまで、木村教授の質問やアドバイスが細かく行われていました。

板木雅彦ゼミ



世界経済危機はどうして起こるのか？

ゼミ生
voice

山森 貫路さん

国際関係学部の中でも歴史ある人気のゼミです。国際金融について学べて、共同論文があるのが特徴です。

西山 大貴さん

人では負けないゼミです。

崎本 彰子さん

国際金融について、先生が基礎から教えてくれます！合宿や旅行が多く、充実したゼミ生活を送れます！

佐岡 政樹さん

一言で表すのであれば、「華」だと思います。

橋本 悠さん

先生の丁寧なフォローと、ゼミ生同士の和気あいあいとした雰囲気が板木ゼミの魅力です!!!

田鍋 有希さん

縦も横もつながりが強く、ON・OFFの切りかえがしっかりとります！

向山 史織さん

信頼できる仲間とともに、一生懸命になれるゼミです!! めいっぱい楽しんでください!

長田 夏穂さん

共同論文が名物です!! 大変ですが知識も増え、仲間との絆も深まります!!

中野 文華さん

ゼミの伝統で共同論文という課題があり、どこのゼミよりもゼミ生と濃い時間を過ごすことができるゼミです!

浮気 菜摘さん

ゼミですごく時間が多く、横のつながりが強くあります。またOB・OGの方との交流もあり、縦のつながりもすごいです。旅行も楽しい!!

萩原 綾香さん

やる時はやる! ONとOFFがしっかりできるゼミです。経済の勉強を一から学べる環境であり、ゼミ生とも充実した時間を過ごせるステキなゼミです。

山形 菜摘さん

1人1人が自分を持っている人々の集団。いつ会っても、どれだけ一緒にいても飽きないステキなゼミです。

コ カンヨンさん

経済の基礎から現在の世界での様々な経済問題について、みなで一緒に考えながら学んでいるゼミです。

松永 健貴さん

先輩後輩仲良く、勉強も遊びも100%取り組めるゼミです。

篠崎 一貴さん

学問においては、1つずつステップアップしながら「ヨコ」とつながり、学問以外においては、OBの方々と「タテ」につなげることができるゼミ。

畑 翔大さん

共同論文の執筆を行った。事柄の本質からつかみ、分析といった、まさに大学と学習といった感じだった。

橋本 茉奈実さん

合宿、飲み会、共同論文、旅行などイベント多め、ON・OFFのハッキリしたゼミ。縦・横のつながりの大切さも学べる。

吉光 祐貴さん

共同論文では、全員で一つの論文を書き上げることの達成感以上に、人間関係を学ぶことができるので、おすすめです。

森口 雅史さん

ON・OFFの切り換えがハッキリしています。勉強はもちろん、イベント等にも力を入れており、人間関係も学べます。

井上 晋さん

三年生の頃の共同論文では死ぬほど本を読み、死ぬほど勉強した一年でした。ゼミというものはこういうモノだ!!と、自信を持って友人に紹介できるゼミです。

山際 愛可さん

自分の大学生活をふり返ると、ゼミの時間は濃いものでした。短期間で猛烈に勉強し、ゼミ生全員で20万字の共同論文を仕上げ、結束力も高めることができたからだと思います。

不況の原因の根本を探る

板木教授が行っているのは、簡単に言えば世界経済全体の経済危機や金融危機の研究。「不況や恐慌はたまたま起きるわけじゃないんです。70年代以降の世界は7~10年周期の不況に繰り返して遭遇してきました。記憶に新しいのが2008年のリーマンショック。経済危機は繰り返すごとに次第に大規模化して破壊力が増えています。それがなぜなのかを探っています」。その分析に板木教授が注目したのが国際過剰資本。不況になると物が売れず在庫ができ(=過剰商品資本)、工場や機械がストップ(=過剰生産資本)。そうすると銀行は融資をせず、お金が余る(=過剰貨幣資本)ことに。「売れ残り商品や設備は破棄されますが、お金は破棄されません。不況のたびごとに静かに蓄積され、景気が上向きになると株や土地など一気に流れ込み、バブルを起こすのです」。この国際版が国際過剰資本で、こうした危機の連鎖のメカニズムを学生たちと共に研究しています。



1. 昨年の3回生共同論文のタイトルは、[日本の国債バブル崩壊のリスク]。いかに安全神話の上に日本の国債が成り立っているかを分析したもので、「面白いデータを分析していて力作でした」と板木教授。
2. 板木教授の著書である[国際過剰資本の誕生]。実はこうした研究はこの世界ではまだマイノリティで、この書籍は学生たちの大切な教科書でもあります。

経済学の基礎を徹底的にマスター

前述のように、国際規模で勃発する不況を経済活動の病気だとすれば、現在はその治療薬も治療方法も見出されていない状態。板木ゼミではいわば、病気のウィルスを突き止めようとしているため、学生たちが学ばねばならないことは膨大です。「とにかく徹底的に経済学の基礎はマスターしなくてはなりません。春からは新3回生が入ってくるので、全体で合宿を行い朝から晩まで学習します」。この名物合宿はかなりハードなことでも知られ、この日のゼミでは上回生が新3回生へ、という準備が必要なかをレクチャー。4回生の卒業論文とは別に、国際関係学部では3回生も共同論文を発表するため、専門的な学習をハイスピードで行う必要があり、ハードな合宿も行うのだそう。4回生も後輩の学修をサポートし、アットホームかつ学びやすい環境が整ったゼミとして人気です。

1. この日は新4回生と新3回生が会してのゼミとなり、教室は満員状態。全員が自己紹介を行い、間近に迫る合宿に向けての必要事項などを話し合っていました。
2. 新3回生がちょっと緊張しながら自己紹介。10名ほどが参加していましたが、まだ半数は留学中で帰国後に合流する予定だそう。
3. ゼミの後は毎回交流と議論を深めるため、教授も含めて会食などへ出かけるほど仲が良いゼミメンバー。



板木 雅彦 いたき まさひろ
国際関係学部 教授

1980年京都大学、経済学部卒業。2000年より立命館大学国際関係学部教授。経済理論学会、国際経済学会に所属し、銀行貸付、債券投資、株式投資を包括する「国際過剰資本」という独自の概念に基づき、世界経済の歴史展開を研究。



部活動&サークル Watching vol. 07

ラクロス部



男女共に試合に向けて強化中

ラクロスはバスケットやサッカーに似たスポーツ。しかも、「頭と背中側以外なら接触プレーも可能」という激しい種目だけに、観戦しても迫力満点。クロスという道具でボールをやり取りしますが、球の時は160kmにも達するとい、スピード感があるのも特徴で、「最初はクロスのキャッチボールさえ大変」だそう。女子は関西新人戦で一位を獲得するなど、男女共に目指すは学生日本一です。



加藤 悠太郎さん 井垣 あいさん
男子ラクロス部・主将 経済学部 4回生
女子ラクロス部・主将 スポーツ健康科学部 3回生

クロスがぶつかり合う音が響き、激しい接触プレーは当たり前。ケガを防ぐためにも、選手たちは体作りのためのトレーニングは欠かせない。目覚ましい活躍を収めた部に贈られる学生部長賞も受賞。

メンネルコール



夏の演奏会に向けて日々練習

メンネルコールは男子学生だけで構成される合唱団。「最初は興味がなかったけれど、最高の音が出たときは何とも言えない感覚」という魅力にはまった津塩さん。昨年秋は関西合唱コンクール・大学ユースの部で銀賞を取るなど評価を得ており、定期演奏会も開催。夏には明治大学と明立交歓演奏会を開催予定で、練習に力が入っています。



団員は男子学生のみだけに、分かり合える楽しみもあるそう。今年は12月10日に第70回の定期演奏会を予定しており、「作曲家の先生にオリジナル曲を制作依頼中」というのも楽しみ。



津塩 崇弥さん
メンネルコール・団長 生命科学部 3回生

7月2日に開催予定の明立交歓演奏会などはこちらでチェック。
<http://mannerchor.waremowaremoto.com/>

立命館大学には多くのクラブやサークルがあり、優秀な成績を収めている学生たちも多く、日々切磋琢磨しています。そうした彼らの今の目標や希望を、代表メンバーが語ってくれました。(回生、役職は取材当時)



立命館大学奇術研究会マジックプレイヤーズ



マジックを通して地域交流に貢献

BKCの開設と同時に誕生したサークルで、学園祭でもマジック喫茶で腕前を披露するなど、イベントの人気者です。「大学でマジックを始めた人がほとんど。僕はトランプから練習しました」という松永さん。とはいえ、そのレベルは高く、年間70~100のイベントへの出演依頼があるそう。滋賀県でも地域のクリスマス会などに出演し、交流を深めています。



松永 晴生さん
マジックプレイヤーズ・部長 理工学部 2回生

部員は40名近く在籍していて、コインやトランプなどを使ってマジックを披露。主に、観客の目の前で行うクロスアップというマジックを得意としていて、見ごたえがある。

マジックショーの出演依頼もWEBで受け付けている。
<http://rits-magicplayers.jimdo.com/>

卓球部



目指すは春秋リーグ戦連覇!

瞬時に相手の球を判断し、打ち方により回転をコントロールするなど、頭脳プレーが必要な卓球。立命館大学の卓球部は関西勢では最強と言われており、ここ数年で強さが増し、常に大会のトップを走っています。「女子も3年前にインカレでベスト4に入ったことのある実力チームです。男子も関西だけではなくインカレでの勝利を目指しています」。強さを誇るだけではなく、地域の小中学生、高校生に指導するなど、卓球による地域交流も頑張っています。



笠井 貴史さん 丸 裕一郎さん
卓球部・副主将 産業社会学部 3回生
卓球部・主務 文学部 2回生

昨年の第84回関西学生卓球選手権大会では、創部初の男女シングルス同時優勝を果たすなど、好成績が続いている。

スポーツ健康科学部 海老 久美子教授

様々な分野の研究者である教員が在籍する大学は、まさに知の宝庫。ここで学生たちは新たな知識を得て、蓄え、発展させていきます。学生たちが学んでいる各分野の専門知識や、その知識が導き出す未来について、教員の方々に語っていただくシリーズです。

「食への理解は 体だけでなく 心を育みます」

EBI KUMIKO

甲子園大学大学院博士課程後期課程栄養学研究科修了。専門は応用栄養学としてのスポーツ栄養・食事学。管理栄養士としてさまざまな分野で活躍。北京オリンピックでは日本選手団への現地食環境調査、JOC強化指定選手の栄養サポートを担当。また、20年に渡り高校球児へのサポートも行っており、著書も多数。

あいコアの星
<http://www.ritsumeai.ac.jp/shs/blog/>

手本がないから出来た 型破りな研究人生

「お待たせしました」と、登場した海老教授は白衣ではなくオリジナルのエプロン姿。「学生と一緒に企画したもので、大学のある滋賀で有名な高島帆布を使っています」と、軽やかな装いと話術も巧みなのは、教授が研究者としてはユニークな経歴をお持ちだからかもしれません。

大学を卒業後、管理栄養士として大手家電メーカーに就職。さらに、フィットネスの世界にも栄養管理が必要だと提唱し、企業内フィットネスのプランナーとして活躍。その後社会人野球チームの選手の栄養指導を担当し、高校野球の選手もサポートすることに。しかし、まだ食育という言葉も認知されていなかった時代に、選手自身の意識を食に向けさせることは大変だったそう。実情を改善すべく手引書的な本を出版した際、恩師に「その効果について科学的解析が必要だ」と指摘され、研究の道へ。とにかくアグレッシブな教授は、その経歴だけで本が出来そうなほどです。

知識を蓄え、生かす 企画&提案も研究の一つ

海老教授の専門であるスポーツ栄養学や栄養教育論は、スポーツと健康の担い手の必須科目。「ここは管理栄養士の養成校ではないので、健康を土台として、栄養素だけでなく食生活を一緒に考えます。特にアスリートを対象とする場合には、どういう競技をしていて、どんな時期に、どんな試合があり、どういう食事がベストかということを細かく分析して提案します。試合の瞬間、ベストパフォーマンスが出来る体を作り上げる食事が求められるのです。だからこそ、アスリート自身に食に興味をもってもらう提案を行う能力が必要で、学生たちにもそうした課題を与えています。単に栄養素が足りていれば良いのではなく、私はアスリートこそ食事を楽しむべきだと考えています。研ぎ澄まされた体を持つ彼らは五感に鋭く、食事を楽しむ高揚感は精神安定にも不可欠。食事のリズムは生活のリズムであり、心の安定につながるのです」。教授の研究は、単なる栄養学の枠を越え、まさに人の人生を支える食事の分析と考察。その視点に到達したのは、企業勤めや国立スポーツ科学センターの研究員など、バラエティ豊かな経験によるものだとも言えます。



1. A3サイズ表裏を使って対象者に向けて食事を提案する課題。このチームの作品は、滋賀県を周るすごろくで栄養計算ができるように構成され、楽しみながら食事を考えられる力作。2. 「メシが握れない選手はボールを握るな!」と帯が添えられた野球飯など、教授の書籍はユニークな切り口でアスリートの食事を一般読者に分かりやすく教えてくれる。

学生の食への意識に 一石を投じた100円朝食

コントロールされた食事であっても、食べる楽しみと喜びは不可欠と語る教授は、それゆえに力と味のある素材を求め、地産地消へと研究を進めることに。「キャンパスのある滋賀の農産物や湖魚は、地産地消への研究を広げてくれ、100円朝食にも取り入れることが実現しました。しかも、この取り組みを父母教育後援会が行うのは大英断だと思います。無料ではなく100円で、時間の制限があるのも大切。多くの学生が利用しているのも、この朝食に価値があると理解している証です。学部では100円朝食を一緒に食べる授業もあり、どのメニューを選ぶか、なぜそれが必要なのかを考えさせます。これも学びの一つ」。教授の話を伺うと、食べることも人生の大切な選択なのだとわかります。「食べたもので私たちの体は構成されますからね。だからこそ、選ぶのです。でも、コンビニ弁当はだめだとか、一般の人がストイック過ぎる食生活をする必要はないと思います。でも、きちんと素材の味を知り、どういう栄養が何のために必要なのか理解して、それが体感できれば、今自分には何が必要なのか感じられる、動物本来の感性が目覚めます」。私たち生物が持つこの感性の育成も、教授の大切な研究の一つと言えます。



海老教授の協力もありBKCで実現した、地産地消をテーマにした100円朝食。地元の野菜をたっぷり使った朝食は学生たちからも好評。

父母教育後援会からのお知らせ 大学と学びを知る春の2大行事

毎年恒例の春の2つの行事は、父母教育後援会の会員の皆様にとって、大学と学生たちの学びを知る機会の一つです。「低回生の時から参加しておけばよかった」という保護者の方々からの声も多く、毎回多くの会員が参加されています。

6/11 春のオープンカレッジ (土)

◎開催地 衣笠、BKC、OIC各キャンパス

キャンパスで学生生活を体験

午前と午後の部に分かれ、テーマ別の説明会や学部別の懇談会を実施。学生が通うキャンパスの雰囲気や学生生活を身近に感じていただけ、2015年度は約3,200名にご参加いただきました。



学生生活、海外留学、大学院進学、教職、資格取得、就職のテーマについて説明会を実施。また学部別懇談会では、学生の日々の学びに触れていただくことができます。



毎回好評のキャンパスツアー
学生ガイドが自らの学生生活を語りながらキャンパスを案内します。

check



頑張る学生の体験談

各説明会や学部別懇談会には、在学生やOB、OGたちも参加。海外留学経験者や就職活動体験者たちが語る体験談は、毎回参考になると保護者の方々からも好評です。

・当日の様子を父母教育後援会の会報誌やホームページに掲載します。そのため、写真撮影をする場合がありますので、予めご了承ください。
・各懇談会の詳細は、同封している「2016年度春・行事のご案内」でご確認ください。

5/28・7/10 父母教育懇談会 (土) (日)

期間中の土曜日・日曜日開催

◎開催地 42都道府県の各会場
(在住地に関係なく、どの開催会場でも参加可能)

保護者と教員の交流の場

2015年度は約2,100名が参加された都道府県父母教育懇談会は、大学の教職員が赴き、保護者の方々と意見を交換し合うほか、学生が就職や留学、課外活動の体験談をお話しします。42都道府県で行われ、どの会場でも参加していただけます。



学生も交えた交流会

学生たちが留学や課外活動、就職について、自らの体験談を語ります。さらに、保護者の方々と交流の時間もあり、「直接、質問して話が聞くことができ良かった」など、貴重な機会にもなっています。



好評のアカデミック講演会(岐阜会場と山口会場のみ)

父母教育懇談会に赴く教授が、専門分野に関するミニ講義を開催。各分野の興味深い内容が聞けると好評で、普段の学生たちの学びがどのようなものなのか、体感していただけます。(予約などの必要がない参加自由の講演会です)

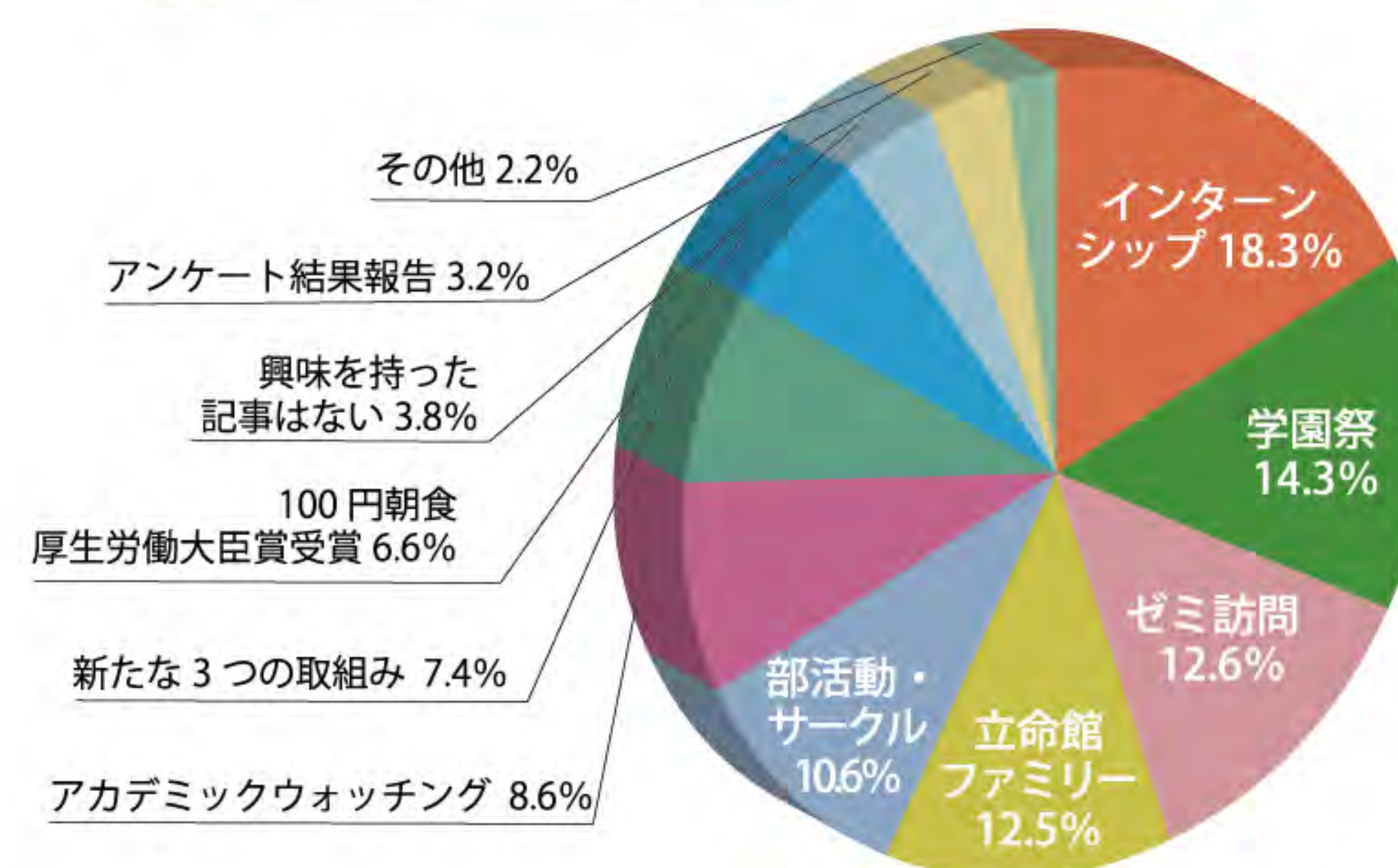
皆様の「お声」が誌面作りに役立っています

父母教育後援会では年3回お送りしており、毎号アンケートにご協力いただいています。2015年度冬号でいただいたアンケートの結果やご意見を紹介します。

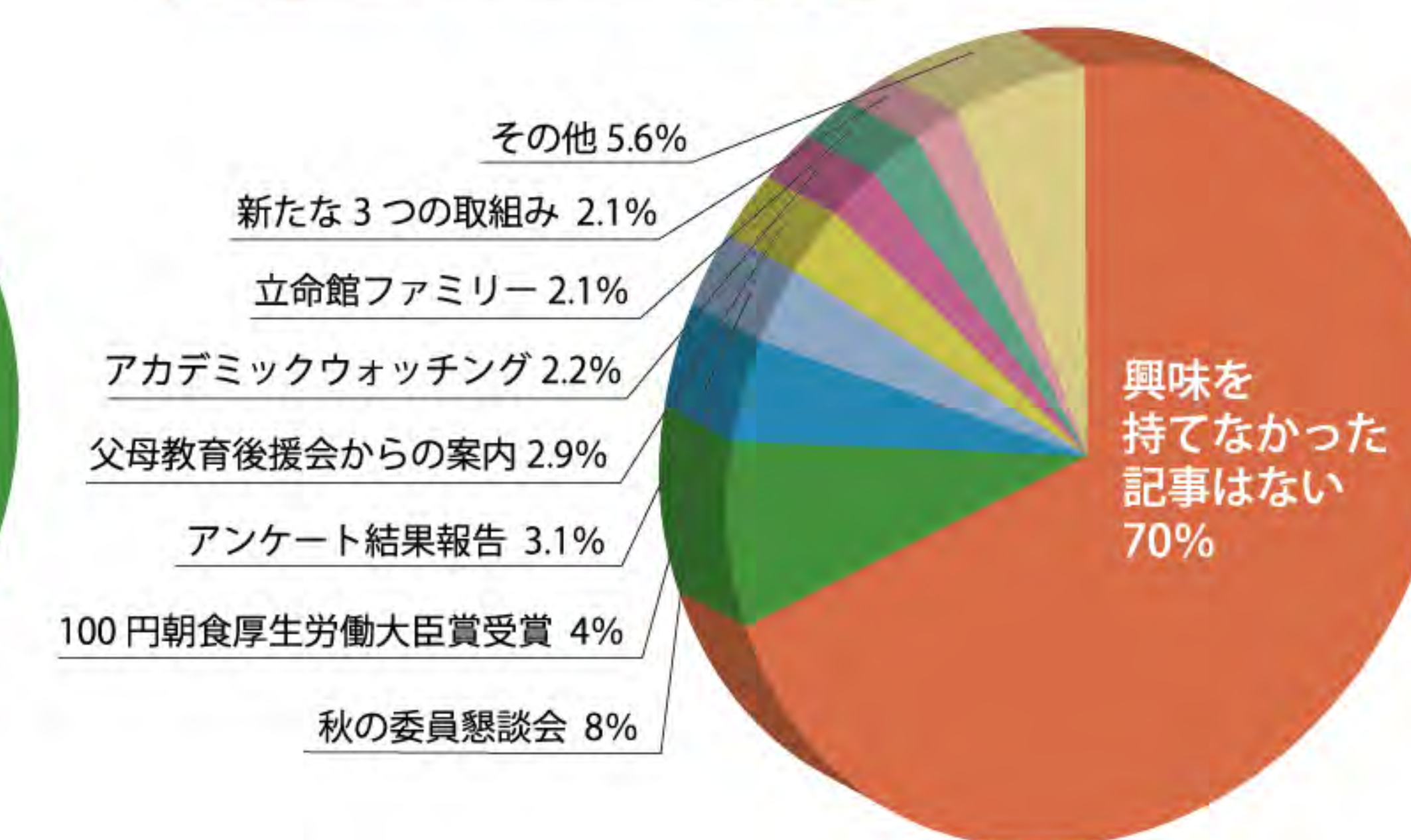


Q. 冬号の中で、興味を持った記事、興味を持てなかった記事を教えてください。

【興味を持った記事】

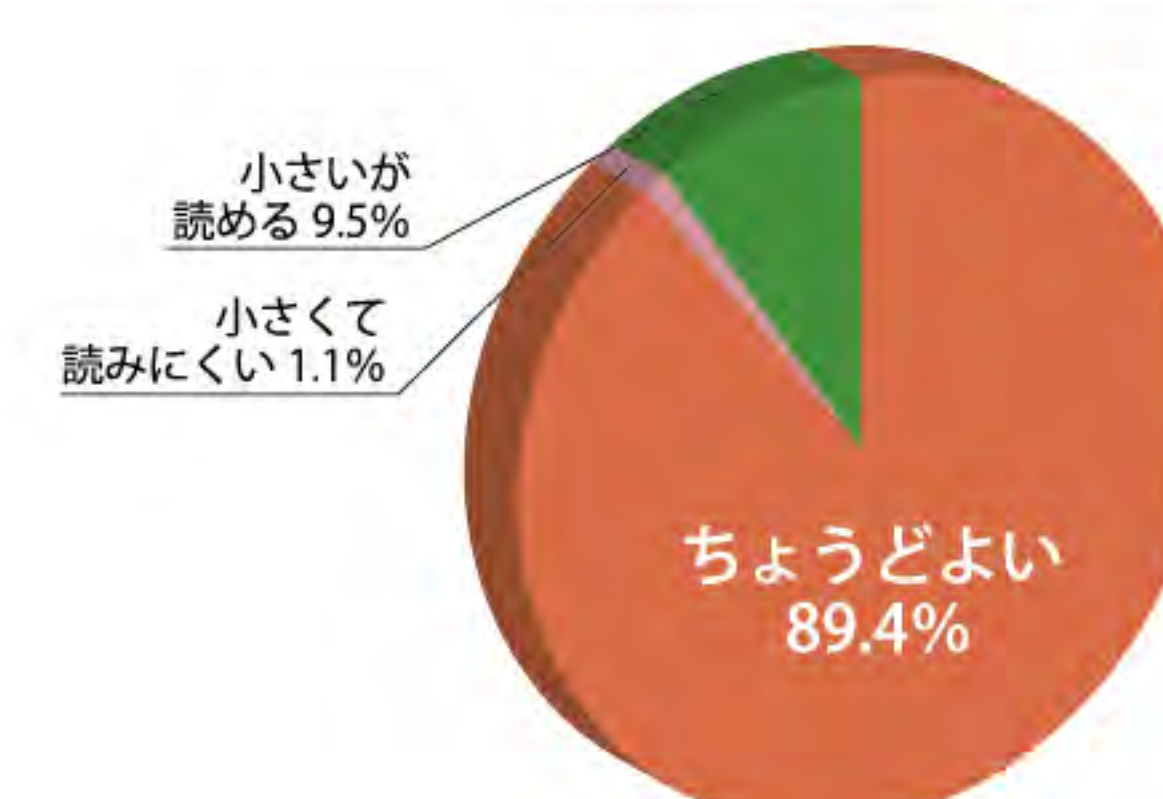


【興味を持てなかった記事】

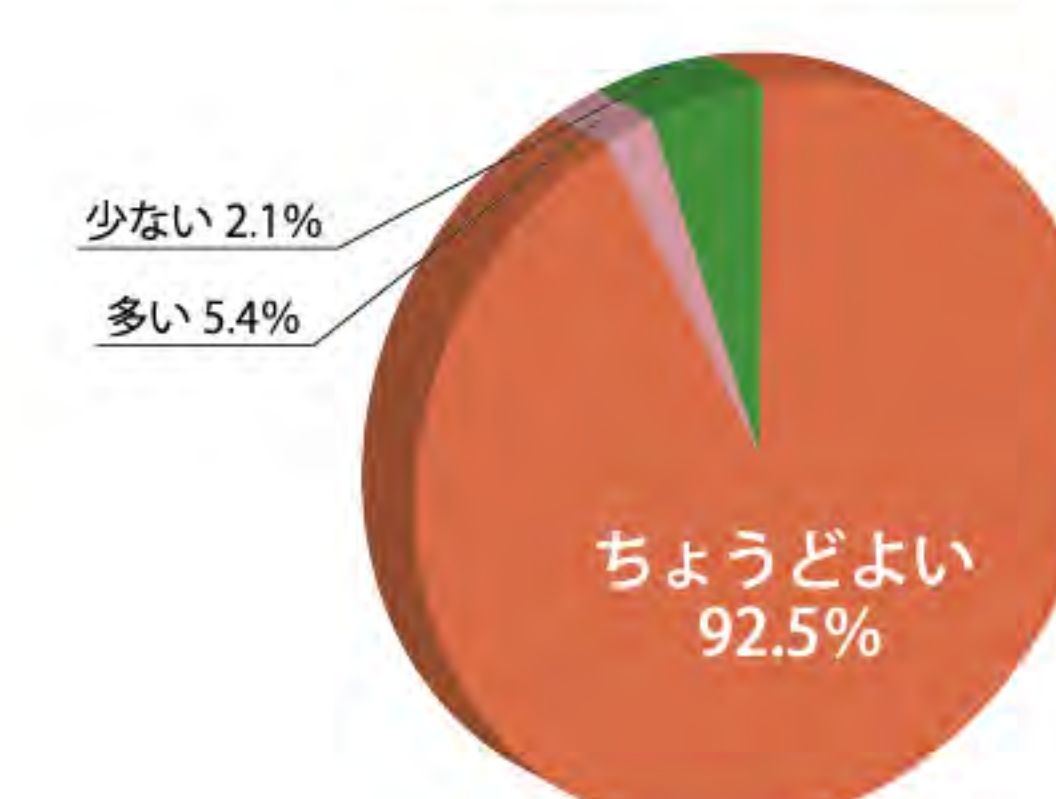


「インターンシップ」はこれまでも取り上げて欲しい項目として常に上位に挙がっており、大勢の方に興味を持って読んでいただきました。特集記事「立命館ファミリー」も、立命館大学の規模を生かした新しいネットワークであることを広く知っていただく機会になったようです。

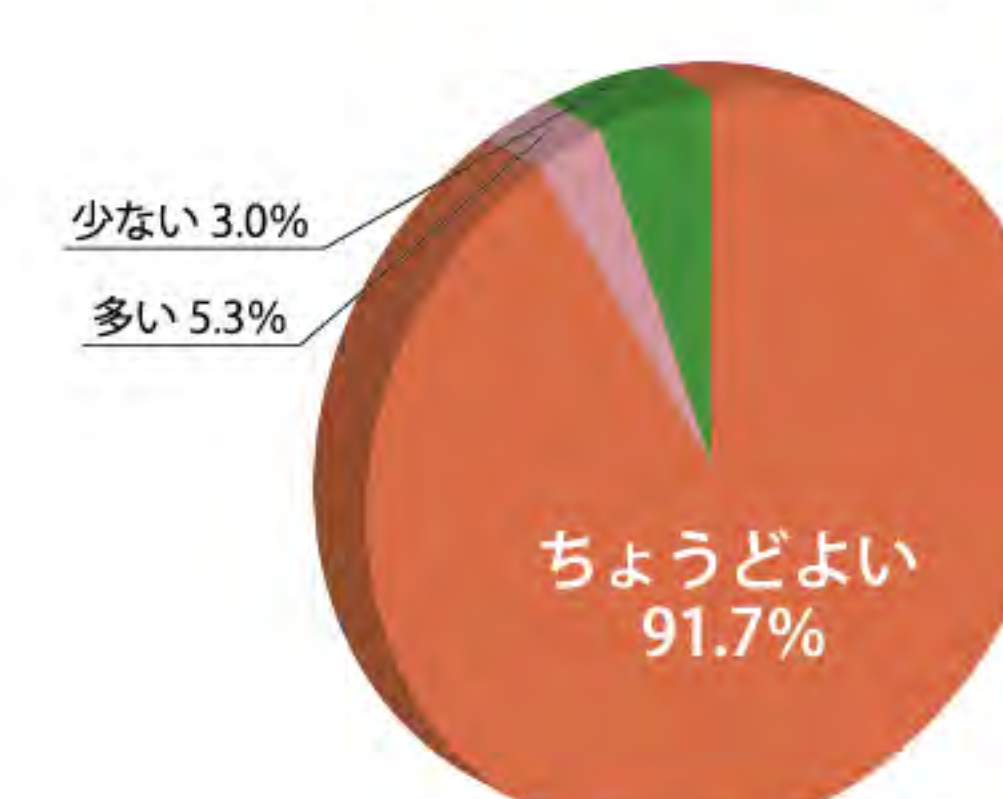
【文字の大きさ】



【1冊の文字量】



【ページ数】



【皆さまからの「お声」】

校友会は卒業生たちの大きな力となる事を知った。
(大阪府、3回生、男)

アカデミックウォッチングは企画に参加するだけでなく、娘と何日か一緒に過ごすことも楽しみにしています。今回の滝本先生のお話はとても良くて、もっと話が聞きたくなり勉強がしたくなりました。
(広島県、3回生、女)

子どもが通うOICの周辺の雰囲気はわかりませんでしたが、通学路の夜間照明が暗いと意見があったとのこと。巡回や電球を交換していただきとても感謝しています。監視カメラの設置も早めによりしくお願いします。
(鳥取県、2回生、男)

卒業記念品「袱紗」すごく良いですね。あらゆる「式」のたび、そして大学名を見るたび、そのときそのとき思うことが違うでしょう。それを感じるのも大事だと思います。
(兵庫県、4回生、男)

アンケートのページを読み、大変共感しました。
(大阪府、1回生、女)

現在2回生の娘と、就職活動について親子で考える良いきっかけを与えていただいたように思います。
(奈良県、2回生、女)

就職についてついつい口を出してしまいがちですが、先輩方の経験談で子どもを信じ、守ることの大切さもよくわかりました。
(3回生、男)

「文字の大きさ」「1冊の文字量」「1冊のページ数」について、いずれに対しても大多数の方から「ちょうどよい」との回答をいただきました。今後も文字量や写真とのバランスなどの工夫を重ね、限られた紙面で大学や学生たちの様子を少しでも多くお伝えしていきます。

たくさんのご意見、ありがとうございました。